

# 唐丹の歴史いろいろ(四)

三陸町吉浜

木村正継



前回孫太郎の悲劇と題して、お伝えしましたが、この事件には、色々な風説があつて、どれが真実なのか判断に迷うことが沢山ありました。

資料を探し、よく読み、現場も訪ねてみました。

その結果、事件を知っている地元の人達には、当然過ぎるほど当然なことを、遠くの人が頭や書物だけで勉強しても見当はずれな事があり、真実は、中々分らないという、当り前のこ

とが分かりました。

新たに分かった分を紹介しながら、事実と迫って見たいと思います。

まず、前回ご紹介した釜石市教育委員会発行の「歴

## 孫太郎事件異聞

史の道」の記述を検証してみたいと思います。

① 事件発生年が書かれていない。

② 発生月が違っている。

③ 用向きが違っている。

④ 行き先が盛の代官所となつているが盛に代官所はない。

上方の財力と盛の町衆の

誘致運動が功を奏して郡役所が盛に出来たとの話が今に伝わっていますが唐丹が所属する第三大区扱所の盛

転置は、明治九年四月二十日の事である。

⑤ 犯人の人数が三人となつている。

⑥ 処刑は、仙台で行われたと書かれている。

⑦ その他色々違いあり。

した話として同様の記述を載せています。

事件発生地の経過は、やはり聞き語りのようです。

遠野での出来事は、波瀾に富んだ内容になっていきます。

犯人達が最初に案内された「文武修行宿」は、幕末

実在したもので、柳田国男ゆかりの「柳翁宿」の斜め

が生えています。

殺害場所、鹿鼻山の向の少し登った、現在孫太郎山と呼ばれている場所、自動車専用道路の下り車線地下大船渡北インター出口あと1キロの看板付近です。



さて、前回文章の、誤字脱字の一部のみ訂正させて頂きます。

5頁二段目、共犯の次に、「無籍者大二郎で、遠野で捕まったが脱走して、篠本万次郎だけが」と挿入。事件発生地鹿鼻山のふり仮名「ししばなやま」

四段目四行目、一六八人が一六八四人です。

孫太郎の関係者「上方」

のおぼあちゃんも「歴史の道」の記述が事実と思つていました。

よく読んでみれば、この記述は、「昔語り」ということが分かると思います。

続いて、続・新遠野物語

を書いた遠野の田中政吉さんが遠野市史にも聞き取り

向かいに「文武館」という看板が現存しています。

牢屋跡は、善明寺の隣といわれていますが、民家が建ち説明板等はありません。

処刑場にも説明板などはありませんが、「アイオン台風」で流されたと言われる

処刑場跡の松の木の跡周辺には、小さなクルミの木